

大用現前

第19号

筆入れ：高一郎代表

2016年4月吉日発行
 発行人：大澤・島中・松尾・栗林
 菅野・大塚
 (PJ7 カインズザビ)



「今年度はありませんが昨年は新卒5名でティーチミーという新たな取り組みを行いました。前回の大用現前18号でも説明がありましたが、ティーチミーとは一定の手順・ルールを順守しながら取付手順を画像で作成し、WEB上で公開するサービスです。以前代表からはティーチミー作成を通してルールを守ることの大切さを覚えさせたかとお伺いしました。私は現在開弁の業務を行っていますがティーチミーで培った知識があるおかげで今の業務で手順を熟識して行ける喜びがずっとと実感しております。今までの新卒の方は研修期間が過ぎたに各々の配属先につき業務を行っていくのが普通でしたが、代表は

代表インタビューから

新学期が始まり新しい仲間が増えましたが皆さんほとんどな目標を立てましたか？

今回は「今年新たにはじめたいこと」について代表にインタビューさせて頂きました。

「今年新たに始めたいこと」とありきたりな質問ではありますが、代表の考えを知っていたために今回はこのテーマでインタビューさせて頂きました。

そういつた当たり前の考えにしづかれず、入社してすぐ様々な車を見ることのできる環境で車のことを深く知ってみたいという強い思いが今のティーチミーに繋がったのだと私は感じています。

前置きが長くになりましたが代表が今年新たに始めたいことが「スバル」「分社」だということです。今ではこのカインズグループは様々な事業所、部署ができておりますが今年には新たにもう一つ作ってみたいと仰っていました。分社することで責任範囲の明確化を確立させるのが代表の真の狙いだと思えます。カインズグループで分社を行うとなれば売り上げの主軸となっている取付キット関連で立ち上げるのがもしねないし、今外国の方々を交えて進めている女性ターゲット商品の化粧品などのところが分社するのかもしれないですね。

代表は今の事業への危機感を常に持ち、新たな柱を構築しています。

今回のインタビューで、「分社」と答えたのは確かに分社をしたたいと私たちが進んで行動した。また新たに何かを臨んでほしいという思いを込め、今回のインタビューで「分社」と答えたのだと私は感じました。

皆さん、「手順」と「ルール」この言葉を意識し仕事に取り組んでいきますよ。

記事 大塚弘大

おすすめ!! BOOK

代表おすすめ本紹介コーナー



社長は君のどこを見て評価を決めているのか？

著 松本順市

今号もカインズザビメンバーが実際に読んだ感想とオススメ箇所を紹介いたします！

この作品は前号経営者(代表)が考えていることが一つ一つ簡潔に説明していて、部下の私達に向けのアドバイスが多く載っているの、一度は皆さんに目を通して頂きたい作品です。大塚

私は経営者という立場に立ったことがない為、経営者の目線で物事を考えることができているのが現状ですが、これからは経営者・周りの社員(上・下) 両方の視点で物事を考えていかなければならないと感じました。この本を読んでも代表に直接聞いてみたいことがあります、それは別の属(時間)に別途聞いてみたいと思います。 島中

最初は難しい内容で自分自身が理解できるか不安でしたが1ページずつタイトルで仕切られている為、深く読みやすかったです。経営者の考えを理解する事によってその会社がどんな会社なのか分かるのではないかなとこの本を読んで思いました。 菅野

成長する事とは、自己のスキルアップだと感じていました。本を読んで代表の言葉が手からよ様な、普段代表が叩いている内容に近い本だと感じました。代表の仰る「成長してほしい」にはどんな意味があるのか知るのにも良い本だと思います。 栗林

従業員に対して書かれているところがありますが、自分の中で時間をしっかりと反芻してただただ読まないようにしたいという意識が持てました。また、各項目ごとに細かく分けられているのでとても読みやすいのでぜひお勧めです！ 大澤

皆さんの中には代表の考えが理解できないと思っている方もいるのではないのでしょうか。この本は経営者とはこんな事を考えているのであると解説しています。重要なのはこの本を代表が社員の皆さんにおすすめしているという事、代表の考えがわかるチャンスです！読んで損はありません。松尾

征矢野 未奈さん 最優秀選手に！

カナック企画の征矢野さんが2月20日(土) 東京都女子サッカー連盟より4部リーグ最優秀選手に表彰されました！4部リーグ全9試合で「総得点105」が突出していますが「総失点1」は、更に輝かしい数字です。



征矢野さんは、大活躍のシーズンでした。今期は3部リーグと第38回皇后杯東京都予選優勝目指して頑張ってください。みんなで試合応援にいきましょう。

金子昌男 相談役 旭日双光章受賞

3月7日に祝賀会が盛大に開催されました。次号、相談役インタビューや祝賀会の様子などの特集を予定しておりますのでご期待ください。

しようぶエバンズさん取材日誌前編

みなさんはしようぶエバンズさんと当社の関わりをご存じですか？当社ではしようぶエバンズさんへ神戸生産センターのハーネス組のお仕事を依頼しています。改めてしようぶエバンズさんのことを社員の皆様へより深く知っていただくため、二〇一六年八月にしようぶエバンズさんへ取材に行ってきました！

事務所奥戸にある「しようぶエバンズ」に伺うと、議員の華刈さんが出迎えてくれました。まずは、ハーネス、クッキーの調理場を見学させて頂きました。ここで焼かれたハーネス、クッキーは施設内のカフェだけでなく、ほかびけ所のお友などに売られるそうです。次に、ハーネスの組み立て作業や、当社のハーネスを仕上げる作業を見学しました。ハーネスの作業は、一人前後で職員の方が一人ついて行っています。「カインズで、と一歩かかるとても早く迎えていただきました。」

「華刈さんの知的障がい者の方に対しての意見」
 「世の中の子は挨拶のできない人もいるけれど、彼らは素直に挨拶もしっかりしています。ただ、



就労者は五〇名ほど、利用規定や年齢制限平均は四〇歳はありませぬ。愛の手帳をお持ちで、自主通勤が可能な方であれば受け入れ可能です。就労者のなかには、学校を卒業した方、引きこもりだった方、一度就労して戻ってこられた方がいます。ダウン症の方たちは表情や見た目でも理解できる反面、知的障害の方の場合は、見た目にはわからず、行動だけが少し変わっている人が多くいます。そのため、一緒に働いていても、理解が得られないことがあります。

議員の言った言葉を素直に受け止めてしまうため、話しかける側、意見する側は言葉に気を付けなければなりません。それほかに、我々の言葉を正しく受け止めてくれる。次回、しようぶエバンズさんと地域との関わりをご紹介します。

記事 P.7 たちあおひ

黒澤光彩子

たちあおひより

経営歴の方々に社会貢献について原稿をお願いしました。今回はい、神戸部長と真田社長にお話をしました。

最近では品物の集まりも悪く、6万円しかありません。この売上金を市の福祉協議会に寄付をしたり、ホースセラピー協会の援助をもらってこの員稼跡地で、ホースセラピーを開催しています。知的障害者の乗馬療法として知られていますが近所の子供達や障害者の方達に集まってもらっています。千葉県成田市からトラックで20万円ほどかかりますが当日の乗馬時代や協会の援助を頂いて6回程の調整がつかず開催できませんでした。

話は変わりますが最近始めたのが健康のためにと家内と散歩をしながらゴミ拾いをしています。近所にいる余剰品を提供しても、買取られず捨てることになる。ゴミが多いときはコンテナに集めて、中には家庭のゴミも落ちて物以外何も集めます。持ち帰ります。市川市ではゴミの有料化でできないような品物もあり、多くなるのでは心配しています。我が家でも拾ってきたゴミは子ピアノを売りに出したことが、家庭ゴミとして分別して出していますので写真と商品を持ち帰ったこともありました。売上金額は、では？いや世の中です。5万円から10万円になります。

「ISO22301取得」
 事業継続マネジメントシステムの国際規格「ISO 22301:2012」の第三号認証を取得してから、このシステムが大規模な災害が発生した時にきちんと機能するかを検証検討し、演習と修正を繰り返して仕組みを作り上げていく必要があります。グループ社員の協力なくしては成り立ちません。これがもう協力願います。よろしくお願ひいたします。

記事 P.7 川口秀樹

ボランティアを通じて 真田 美喜男

ボランティアという言葉は、日頃、特に意識しておりませんが、東日本大震災以降、目に見え、意識するようになりました。私自身ボランティア活動に関わりがあることでは、今行っている助会の行事が全ては、時間と調整してなるべく参加するようになっています。

普段は、なかなか近所付き合いができませんが、行事に参加することによって顔の知らない人との出会いがあり、何気ない会話の中に近所が起きている様々な出来事や聞き、参加になることがよくあります。又コミュニケーションをすることで、より親しい関係も生まれます。

近年、若い人達のボランティア活動に対する熱心な姿をマスメディアを通じて紹介され、私達の若き世代の大きな変化を感じます。又、ボランティア活動等を通じて地域社会とつながりをもつことは、非常に大切な事ではないかと考えます。

4月16日に新体制が発定されました。この新体制はFY17に向けて前倒しでなく、今後グループ全体の舵を切る上で重要な組織変更となります。各部門の決裁や意思決定を迅速に、みなさんの責任と当社に対しての貢献が明確になる仕組みを構築していきます。一方で互いに行った仕事がお互に見合っていることが評価されます。

うろたえてはいられません。その分、若手チームが上へ上へ上がっていくチャンスでもありますので、「限界」という壁を作らずに困難を乗り越えて肥やしにして頑強に下さいます。